

月刊 工連ニュース

OKINAWA
INDUSTRIAL FEDERATION NEWS



沖縄県産品マーク

毎年7月は「県産品奨励月間」・10月は「沖縄の産業まつり」です。

夢を明日の力に

- 「元気カンパニー」(株)ラシーマ
- 「ちばりよ～県産品」仲宗根糰家
- 沖工連(食品・観光)関連産業部会
- 中城湾港新港地区企業を対象とした支援(相談)事業説明会

2016
4月号

Vol.617

郷土の資源で郷土をつくる



琉球セメント

〒901-2123 浦添市西洲2丁目2番地2

TEL098-870-1080(代表)

<http://www.ryukyucement.co.jp/>



株式会社 **紅濱**

〒901-2123 浦添市西洲2丁目2番地2

TEL098-870-1150 FAX098-870-1079

<http://www.benihama.jp/>

月刊 **工連** OKINAWA INDUSTRIAL FEDERATION NEWS ニュース 4月号 2016

Vol.617

- 2・3p ▶▶ キラリ! 元気カンパニー「沖縄の未来を照らす企業」
デジタルの波を沖縄から世界へ
創業34年目の大きな挑戦
(株)ラシーマ
- 4p ▶▶ ちばりよ〜県産品
沖縄生まれの酵素を日本各地へ
仲宗根糰家
- 5p ▶▶ 工連サロン
(公社)沖縄県工業連合会 青年部会
- 6・7p ▶▶ 食品表示一元化に係るセミナー
(公社)沖縄県工業連合会
食品関連産業部会・観光関連産業部会
- 8・9p ▶▶ 中城湾港新港地区を対象とした
支援(相談)事業説明会
中城湾港開発推進協議会
- 10p ▶▶ 「学校と産業界の交流事業」
12年目に突入!
(公社)沖縄県工業連合会
- 11p ▶▶ 事業主の方へ
公正な募集・採用のため
自社の採用基準や選考方法を
確認しましょう
沖縄労働局

- 12p ▶▶ 琉球大学工学部後援会からのお知らせ
工学部後援会主催 就職説明会報告
- 13p ▶▶ 沖縄職業能力開発大学校
平成28年度前期
能力開発セミナーのご案内
- 14p ▶▶ 沖縄高専だより
平成27年度
沖縄工業高等専門学校教育・研究
情報交流会を開催しました
- 15p ▶▶ 工業技術センターだより
技術情報誌テクニカルニュース
65号の発刊について
工業技術センター
研究プロジェクトのご紹介
- 16p ▶▶ トピックス
連合沖縄より要請
会員募集のご案内
会員の皆様へ

2016年 3月 工連日誌

2日(水) 3月定例執行部会
●時間/12:00~13:30 ●場所/工連会議室

9日(水) 中城湾港新港地区企業を対象とした支援(相談)事業説明会
●時間/14:00~15:30 ●場所/沖縄県工業技術センター2階講堂

4日(金) 青年部会
●時間/17:00~19:30 ●場所/沖縄産業支援センター

23日(水) 平成27年度 第5回理事会
●時間/12:00~13:30 ●場所/ホテル日航那覇グランドキャッスル

8日(火) 食品・観光関連産業部会
●時間/14:00~15:30 ●場所/沖縄産業支援センター

特許等取得活用
支援事業

知財総合支援窓口

中小企業など知的財産の有効活用をアドバイスします。

ワンストップサービス

秘密厳守

相談無料

個別対応のため予約が必要です

- 知財専門家が窓口常驻
- 知財専門家を派遣
- 知財ニーズの発掘
- 知財に関する支援策の紹介
- インターネット出願を支援

※ご相談頂いた内容は守秘義務により保護されます。
※詳しい日時に関してはお問い合わせください。

- ◎ うるま窓口(うるま市)毎週 月~金(祝祭日を除く)/8:30~17:15
- ◎ 那覇窓口(那覇市)毎週 火・水(祝祭日を除く)/9:00~17:00
- ◎ 外部窓口(名護)毎月第4火曜日/9:00~17:00
- ◎ 外部窓口(八重山)偶数月・第4金曜日/10:00~17:00
- ◎ 外部窓口(宮古)奇数月・第4金曜日/10:00~17:00

全国共通お問合せ先



0570-082100 (有料)

☎098-995-8778

■ 内閣府沖縄総合事務局委託事業/
実施:一般社団法人沖縄県発明協会

公益社団法人沖縄県工業連合会は「沖縄の産業まつり」や「県産品奨励月間」などの活動を通して、沖縄経済の自立化を目指しています。

●工連ニュースへのご意見ご要望をお待ちしております。Eメールでもご参加ください。

E-mail/info@okikouren.or.jp ホームページ/http://www.okikouren.or.jp

発行所/公益社団法人 沖縄県工業連合会

那覇市字小祿1831-1沖縄産業支援センター6F

電話(098)859-6191 FAX(098)859-6193

編集・印刷/有限会社サン印刷 電話(098)889-3679



キラリ! 元気 カンパニー

沖縄の未来を
照らす企業

デジタルの波を沖縄から世界へ 創業34年目の大きな挑戦

株式会社ラシーマ

「夢をあきらめない」を胸に
幾多の艱難を乗り越え歩む

2000年代に入ってからインターネットが広く世界中に普及し、国内でも利用者が1億人を越えています。(総務省「平成25年通信利用動向調査」参考)

パーソナルコンピュータ、スマートフォン、タブレットなど種類も多く、また電子メールの送受信、商品・サービスの購入・取引、地図・交通情報の提供サービス利用など、その利用目的も様々です。

そんな中注目を浴びているのがデジタルサイネージ(電子看板)です。デジタル技術を活用してディスプレイやプロジェクトに映像や情報を表示する新しいスタイルの広告媒体として世界中でシェアを上げています。これまで主体だった紙媒体とは異なり、内蔵記憶装置に表示情報を保存したりインターネットを介して情報を送り込むことにより、多様な広告の展開が可能となります。

設置する場所の地域性や時間などを考慮し、視聴者ターゲットを絞った広告を発信できることもメリットのひとつです。また、紙やフィルムといった素材を使用しないため、印刷コストのみならず、取替えにかかる人的コストも削減できます。廃棄物を出さないことから、環境にも配慮した現代型広告といえます。

海外ではビルの壁面など街中のいたるところで目にするほど一般的となっており、国内でもデパートや銀行、ホテル、映画館、アミューズメントスポット、駅構内など多

くの場所で設置されています。

2015年には米国ラスベガスにてデジタルサイネージの大規模な展示会が開催され、世界中からメーカーやバイヤーが集まりました。日本のメーカーの中で唯参加した企業が株式会社ラシーマです。

株式会社ラシーマは創業1983年。コンピュータの企業というよりも、車関連企業のイメージを持つ方が多いかもしれません。西原町に本社を持ち、現在は車検・自動車整備・販売業を中心に取り扱っています。その原点は意外にもコンピュータにあったといいます。

株式会社ラシーマ代表取締役を務める島袋勉氏が弱冠20歳ではじめた会社で、学生時代からコンピュータに関心を持っていた島袋氏により、当時まだ珍しかったコンピュータネットワークシステムを積極的に取り入れることにより業績を伸ばしてきました。自動車整備・販売業務を進める一方で、コンピュータの知識と技術を活かしたソフトウェア制作事業もスタートし、多方面から大きな期待を受けていたさなか、会社にとって思いがけないことが起きました。リーダーである島袋氏が事故に遭い、両脚を失う大怪我を負ってしまったのです。カナダ、アメリカ、メキシコを視察し、シリコンバレーなど最先端の土地でコンピュータに関する知識を得、沖縄へ持って帰ろうというさなかの事故でした。

関東の病院で手術を受け、義足を装着し、約1年間のリハビリを終えて沖縄へ戻ったとき、会社は業績を大きく落とし、危機状況に陥っていました。しかし、これに屈す



株式会社ラシーマ
代表取締役社長 島袋 勉



社内の接客ルームには「デジタルサイネージ」を活用した自社サービス情報を配信しています。(写真左と右ページ)



米国ラスベガスのデジタルサイネージショーのブース



県内では、第39回沖縄の産業まつりでの出展のほか、県内店舗にてデジタルサイネージを稼働しています。

新しい分野へ挑戦 インターネットの未来を見据えて

コンピュータの利点を生かした独自のシステムで自動車整備部門は効率化に成功し、さらに、新事業として社内にIT事業部を新設、専門のスタッフとともにデジタルサイネージという新分野の開拓にも乗り出します。

「世界的にデジタルサイネージが普及している中、日本国内ではまだまだ導入している場所が少なく、その普及が遅れている理由のひとつに設置コストが高いことがあり、利用が限られています」と島袋氏は話します。2015年に出版した米国ラスベガスの展示会では、日本の企業がほかになかったこともあり、来場者の目を惹きました。

「ラスベガスでの経験は大きな自信につながった。同時に、デジタルサイネージが持つ可能性も再確認することができました」とラスベガスでの収穫は大きかったようです。

これに続き幕張で開催されたデジタルサイネージジャパンへの参加、産業まつりへの参加でも好評を得ることができ、次はドイツで開催される世界最大の家電ショー「IFA(コンシューマーエレクトロニクスショー)」への参加が目標とされています。

県内での宣伝広告もはじまり、県内店舗への導入も始まっています。現在は、デジタルサイネージを視聴した方が、自身のスマホをサイネージにかざすと、そこに流れているコンテンツの情報をスマホに表示し、そのホームページに誘導できるシステムを作成中です。

「移り変わる時代の中で、電気自動車、自動運転装置が主流となっていくことが予想され、その性能に合わせてメンテナンス技術や仕組みなども進化させなければなりません。将来的にはデジタルサイネージと自動車整備双方の技術と経験を組み合わせたい独自のシステムを作りたい。現在は整備記録や内容、店舗データなどをひとつにまとめ、いつでもチェックできるアプリの開発も同時に進めています」と島袋氏。

「私たちが目指しているものは、誰でも簡単・気軽に利用できる利用者目線のシステム開発です。アイデアは山ほどある。開発者としての私たちも含め、どつすれば多くの方々に「ワクワク」と興味を持って使っていただけなのか？を常に考え続け、世界に通用するシステム作りを目指しています」と夢を語りました。

株式会社ラシーマ

- 業種
デジタルサイネージ事業
車検・その他自動車整備
自動車保険
- 設立
昭和57年12月
- 代表者
代表取締役社長 島袋勉
- 住所・連絡先
沖縄県中頭郡
西原町小那覇550-1
098-946-6280(代表)
098-944-7372(システム)

Corporate Profile





ちばりよ〜県産品

仲宗根糀家

● 沖縄県那覇市国場397番地1
 TEL 098-833-0710・FAX 098-851-9518
<http://www.koso-okinawa.com/>



同社の製品には、食べたものを消化して排泄する過程や、お肌の新陳代謝を整える「酵素」を原料にしたラインナップが揃っています。

沖縄生まれの酵素を日本各地へ

たんばく質、ビタミン、ミネラル、食物繊維などとともに人間の体に必要とされる栄養素のひとつである酵素。呼吸や消化、筋肉を動かす力といったほぼすべての生命活動に関わっており、生命の源ともいわれています。

酵素は、おもに生肉や魚、野菜、果物に含まれていますが、加熱すると作用が失われてしまうという特徴を持ち、生の野菜や果物を使用したスムージーや加熱せずに調理するローフードなどが女性を中心に世界的な注目を浴びています。

また、味噌や納豆といった発酵食品に豊富に含まれる「食物酵素」の中でもとりわけ糀(こうじ)にはより多くの食物酵素が含まれ、肉をやわらかくするといった効果も持つことから、健康食品として広く知られるようになりました。

この糀の働きにいち早く着目し、県内ではじめて本格的なオリジナル糀商品の開発に乗り出したのが仲宗根糀家の仲宗根悦子氏です。「高酵素・高繊維・低タンパク」を基本とした健康的な食生活を提唱し、塩糀、米糀、酵素甘こうじなどの商品を開発・販売するとともに、糀を有効に活用したレシピの考案、料理教室での指導と幅広く活

動しています。

「ビジネスサプリメントアドバイザーとして様々なサプリメントや栄養食品を調査し、自身でも数多く試してきたなかで、もつとも魅力を感じたのが酵素」と話し、「昔から日本人はうまく酵素を生活に取り入れてきた。たとえば、焼き魚に大根おろしを添えることで、生の大根に含まれる酵素が消化活動を助け、効果的に魚の栄養を摂取するサポートをしてくれる。現代ではこういった食生活の工夫が失われつつあります」と、現代人の健康に警鐘を鳴らしています。

「特に沖縄県は野菜の摂取量が全国平均と比べて低く、肥満率も非常に高いことから、手軽に必要な酵素が摂取できる糀を強く推奨しています。その麹の発酵パワーは腸内環境を整えて免疫力をアップします。」

塩糀を使ったタレや野菜の糀漬け、酵素甘こうじ(甘酒)など手軽に用意できるものを毎日一品程度、献立の中に取り入れてみてくださ」と仲宗根氏は語ります。

一般的な商品は賞味期限を延ばすため出荷前に1分間煮沸しますが、仲宗根糀家では活きた酵素にこだわり、そのままご家庭に届けるため、低温

(58度位)にて約7〜8時間発酵させ、冷凍にし、解凍したら冷蔵庫で保存します。保存できる期間は1週間〜10日と短くなりますが、酵素の効果は大きいといわれています。

また、新商品として沖縄県産モズク100%のモズク糀「モズクの王様」を発表。県産品マークを取得し、新しい沖縄の健康食品として県外、海外へ拡散するための取り組みに力を入れています。

沖縄の真夏の気候は麹づくりには難しいのですが、「今後は県内の団体・企業ともタッグを組んで、お菓子やパン、麺など幅広い分野で糀を使った商品を生み出したい」と、まだまだ知られざる沖縄の糀製品の開発に情熱を燃やしています。



すべての製品の原料となる「糀菌(種糀)」



今回、取材させていただいた
 仲宗根糀家
 代表 仲宗根悦子氏

(公社)沖縄県工業連合会 青年部会 工連サロン

平成28年3月4日(金)



実践的なマーケティング理論に加え、さまざまな経営現場での体験談に真剣に聞き入る青年部会の参加者

経営戦略には欠かせないマーケティング論について語る呉屋会長

沖縄県工業連合会青年部会による「工連サロン」が3月4日沖縄県産業支援センターにて開催されました。

開催にあたって沖縄県工業連合会の役員を講師として招き、県経済及び会社経営など様々な分野についての講話を聴き、意見交換の場を持つことにより、青年経済人としての資質向上を図ることを目的としたものであり、今回が初開催となります。

記念すべき第1回目の講師を務めたのは、沖縄県工業連合会会長呉屋守章氏。「いくつかの競争戦略理論の紹介」をテーマに、アメリカの経済学者マイケル・ポーター氏による「競争の戦略」やマーケティング分野の世界的権威であるフィリップ・コトラー氏のマーケティング論・楠木建氏の著書「ストーリーとしての競争戦略」についての解説を述べながら、自らの経営における概念についても語りました。

呉屋会長は「経営においてマーケティング戦略はもつとも重要な要素のひとつ」とし、金秀商事株式会社のスーパーマーケット店舗拡大事業において、地域性やニーズを入念に調査したうえで各店舗に個性を持たせるなど、自らの体験をもとにした独自のマーケティング論を展開。普段聴くことのできない貴重な講話に、参加した

青年部会会員は大きく影響を受けたようでした。

「幅広い知識と柔軟な思考によって仕事の効率、成果は大きく変わる。戦略的なマーケティング展開はどの分野にも必要なこと」と呉屋会長は若い会員たちを鼓舞。青年部会会員にとって意識向上のよい機会となりました。講話終了後は懇親会も行われ、会員同士の交流を深めるのと同時に、これからの青年部会の発展につなげるための活発な意見交換の場にもなりました。

沖縄県工業連合会役員を招いての工連サロンは今後も定期的に継続されることとなり、親会と青年部会との結びつきがより強固なものとなるのが期待されています。



(公社)沖縄県工業連合会
食品関連産業部会・観光関連産業部会

食品表示一元化に係るセミナー

●日時：平成28年3月8日(火) ●会場：沖縄産業支援センター



説明内容

1. 従来制度の特長と新制度の課題等
2. 食品表示法における従来制度との変更内容
3. 内閣府等における新たな食品表示基準の内容
4. 今後求められる対応



公立大学法人宮城大学特任教授
食品表示一元化検討委員会座長
池戸 重信氏

昨年6月に食品衛生法、JAS法及び健康増進法の食品表示に関する規定を統合し、食品の表示に関する包括的かつ一元的な制度が創設されました。生鮮食品・加工食品それぞれに猶予期間を経て完全施行されることとなっており、食品表示についての知識を深めるべく「食品表示一元化に係るセミナー」が開催されました。

公立大学法人宮城大学特任教授池戸重信氏を講師に招き、新たな食品表示ルールと今後の課題をテーマとした基調講演が行われ、会場となった沖縄産業支援センターには食品関連事業者を中心に多くの人々が集まりました。

池戸氏は1972年農林省入省、環境庁、農林水産省、東京農林水産消費技術センター所長、食品流通局消費生活課長、独立行政法人農林水産消費技術センター理事長などを経て、現在は宮城大学、香川大学及び日本農業経営大学校非常勤講師を務めています。日本食品出版「トレーサビリティって何?」、農文協「食品の安全と品質確保」など著書も数多く、食品表示制度における幅広い知識を持ち、全国各地で講演を行っています。

今回の講演では、おもに従来制度の枠組みと新制度の進捗状況、食品表示法における従来制度との変更内容、内



閣府令における新たな食品表示基準の内容、さらにこれらを受けて今後どのような対応が求められるかについて説明されました。

新制度は安全性確保情報の確実な提供を最優先に、商品選択上の判断に影響を及ぼす重要情報を提供するものであり、基準の策定その他、必要な事項を定め、適正を確保することによって、一般消費者の利益増進、国民の健康保護・増進、食品の生産・流通の円滑化に寄与することを目的としています。

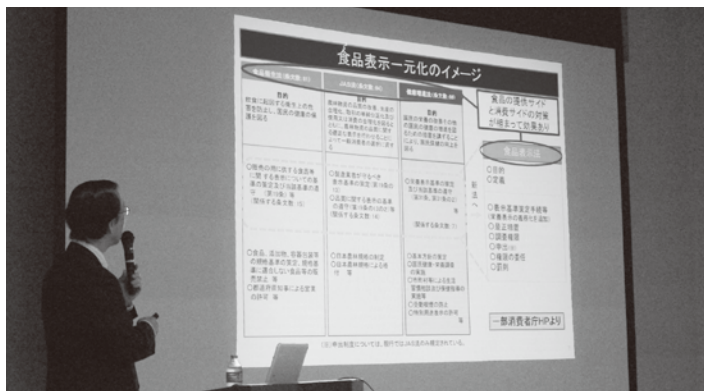
新制度には、加工食品と生鮮食品の区分の統一や製造所固有記号の使用に係るルール、アレルギー表示に係るルールの改善など様々な変更点があり、事業者に対する罰則も強化されます。

情報の重要性の整理、インターネット販売の表示、異種混合の定義、遺伝子組み換え、添加物表示、加工食品の原料・原産地表示など検討が必要とされる事項も多数あります。事業所にとつても、正確かつ適切なデータ管理の推進、接客対応者に対する正確な知識の普及など、課題が多いのが現状です。

池戸氏は、「食品表示は食品を提供する側と消費者を結ぶ信頼の絆であり、食品表示のルールを活用するのは

消費者。事業者は消費者以上にルールを理解しておく必要がある」とし、法令順守はもちろん、食品表示に関する消費者の意識を注視すべきと提唱しました。

その他にも、栄養機能食品についてのルールや酒類の取り扱いについてなど食品表示法施行に伴う新たなルールの解説と質疑応答が行われ、約1時間半という限られた時間ではありましたが、新制度の概要と重要なポイントを理解することができ、参加者は満足げでした。



食品表示に関する3法の一元的なイメージについては、イメージ図を用いて現行の制度的な課題の解決についての解説も具体的に示されました。



中城湾港新港地区を対象とした 支援（相談）事業説明会

●日時：平成28年3月9日（水） ●会場：沖縄県工業技術センター

中城湾港新港地区に入居している企業を支援することを目的に、（公社）沖縄県工業連合会、（公財）沖縄県産業振興公社、（独）沖縄工業高等専門学校の三機関の連携により、企業の悩みを解決する支援（相談）事業が平成28年4月より開始されます。

中城湾港新港地区は沖縄市、うるま市にまたがる総面積392.4haという広大な土地にあり、昭和57年の中城湾港新港地区開発事業開始から現在までに数多くの企業を誘致してきました。現在では企業数199社（雇用量4900名（概算））、進出率68.9%となっています。また、これまでの鹿児島、志布志、那覇港とを結ぶ航路、石垣、宮古、那覇港とを結ぶ航路を週一便間隔で就航中ですが、さらに京阪航路が加えられることが検討されており、新年度から定期船就航実験が計画されます。旧特区地域においては様々な優遇制度が用意されており、進出企業の初期投資削減を目的とした賃貸工場や輸送費補助など投資環境の整備が進められているところです。

企業に対してマッチングや、技術開発、商品開発、売上拡大、販路拡大、人材育成、マーケティングなど様々な相談に無料で対応する中城湾新港地区企業支援出張相談会は4月より定期

的に行われることとなっており、企業へのサポートもより充実したものと なります。

これに先立って支援（相談）事業説明会が3月9日沖縄県工業技術センターで開催されました。説明会では、支援（相談）事業の概要を中心に、（公社）沖縄県工業連合会、（公財）沖縄県産業振興公社、（独）沖縄工業高等専門学校の各機関の紹介とそれぞれの支援事業についての説明が行われました。

沖縄県工業連合会からの説明では企画業務部川満貞宏氏が登壇し、製造業を中心に県内企業の技術向上、及び経営支援に取り組み、「県産品奨励月間」や「沖縄の産業まつり」など沖縄県の経済新興に関連する様々な事業を実施してきた工業連合会の歴史と事業活動について説明しました。また、ホームページを活用した企業間同士のマッチングを推奨しており、会員企業の紹介ページをはじめウェブサイト上の様々なページを紹介しました。

沖縄県工業連合会では、「企業間の業務連携促進相談事業」として県内企業との業務連携相談及び斡旋を行っています。工業連合会では、県内製造企業の技術や製品などの情報がひとまとめになっていることから、協力業者を求める県外企業の相談に応じることも可能です。企業支援アドバイザー



中城湾港新港地区企業支援 出張相談会(相談無料)

対象 中城湾港新港地区企業 **期間** 平成28年4月～

場所 企業立地サポートセンター
うるま市州崎12-94 TEL.098-921-0225

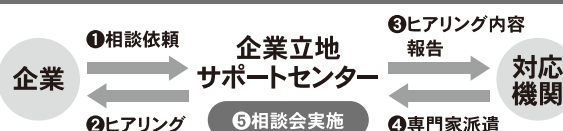
相談対応機関

(独)国立沖縄工業高等専門学校 毎月第3水曜日 14:00～16:00
(公社)沖縄県工業連合会 毎月第2・4水曜日 14:00～16:00
(公財)沖縄県産業振興公社 毎月第1水曜日 13:00～17:00

【相談内容】

企業マッチング、技術開発、商品開発、売上拡大、販路拡大、人材育成、ものづくり、マーケティング、情報発信、IT、WEB等

ご相談までの流れ



お問い合わせ・申込先

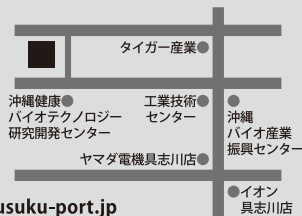
企業立地サポートセンター

沖縄県うるま市州崎12-94
TEL.098-921-0225・FAX.098-921-0325

✉ info@nakagusuku-port.jp

【中城湾港開発推進協議会ホームページ】

申込書のダウンロード先 <http://nakagusuku-port.jp>



ザーを派遣し、入居企業の様々な相談に対応します。

沖縄県産業振興公社からは、よろず支援拠点コーディネーターの上地哲氏が登壇しています。県から委託された経営支援、金融支援のメニューを多く持ち、各分野の専門家を有する立場から、的確なアドバイスを提供するとしています。

また、沖縄高専研究連携相談事業として、県内企業の技術開発、研究連携のための相談事業も行われます。地域連携推進コーディネーター・菅原正寛氏によると、沖縄高専の教授陣には企業

技術開発室出身者も多く、より実践的なアドバイスが可能であるということとです。製品化への工程が早いことも高く評価されています。企業との共同研究開発にも積極的であり、幅広い協力が可能です。

本事業では、企業立地サポートセンターを事務局として企業間のマッチングを進めていくこととなっています。

沖縄県工業連合会桑江修専務理事は「中城湾港新港地区の発展はすなわち沖縄県の経済の発展に影響する」とし、支援(相談)事業の利活用を促しました。

公益社団法人沖縄県工業連合会 「学校と産業界の交流事業」12年目に突入!

沖縄県工業連合会では、平成17年度より「学校と産業界の交流事業」を行っています。これは、会員から講師を募り、学校の授業や、PTAや教職員対象の研修会等にゲスト講師として派遣して産業講話を行うもので、子供達や保護者、教育者等が職業について考えるきっかけとなることはもとより産業教育の向上、地場産業への理解を深めることを目的としています。

現在、同事業には食品、環境、エネルギー、鉄工金属、窯業、琉球ガラス、縫製、関節装具、弁理士等の事業を営む14社から社長や技術者等が講師登録しており、事業開始から12年間で小中学校、高校、大学、高専、職業訓練校など合計122校で延べ16,835名の学生等を対象に産業講話を行っています。

これまでの人生経験を通して、働くことの意義や楽しさなどを伝える経営者等の話は、子供達にとって将来の夢をイメージする力になり、様々な不安を乗り越える励みになっている部分が強いです。また、生徒からいただいた講話の感想を見ると、ゲスト講師の話す「あきらめないことの大切さや、夢を大きく持つことで道が切り開けていく」などのメッセージは、子供たちの心を大きく動かしていることが読みとれます。

学校外の社会に触れるよい機会として「学校と産業界の交流事業」をもっと多くの学校が活用して、将来の沖縄を担う子供達の教育にお役立ていただけたら幸いです。無料です!



●講師リスト (平成28年3月15日現在)

産業項目	企業名	役職	氏名
食品	(株)ぬちまーす	社長	高安 正勝
	(株)赤マルソウ(沖縄フードビジネス会)	社長(会長)	座間味 亮
	オキコ(株)	事業部長	渡久山 秀治
酒類	オリオンビール(株)	研究品質保証部部长	島袋 勝
	ヘリオス酒造(株)	製造本部長	玉城 英哉
	(株)多良川	会長	砂川 佳一
環境	(株)トリム	会長	新城 博
エネルギー	沖縄電力(株) ※小中学校対象		適任者人選
鉄工・金属	拓南製鐵グループ		適任者人選
窯業・土石	琉球セメント(株)	専務取締役	中村 秀樹
琉球ガラス	(株)恩納ガラス工芸育成センター	会長	宮國 次男
縫製	沖縄県衣類縫製品工業組合	事務局長	伊良波 勲
その他製造	(株)佐喜眞義肢	社長	佐喜眞 保
その他	福島特許事務所	所長	福島 康文

※「学校と産業界の交流事業」では講師を会員の皆様から随時募集しています。経営者等の自薦又は適任者の推薦をお願いいたします。

お問い合わせ／事務局：TEL.098-859-6191 (担当：川満)

事業主の方へ

公正な募集・採用のため 自社の採用基準や選考方法を確認しましょう

- 募集・採用時に、本籍や家族のことを聞いていませんか？
 - 障害を理由に、障害者を排除したり、不利な条件を付したりしていませんか？
- 公正な募集・採用を行うために、従業員を採用するときは、職務遂行上必要な適性や能力だけを採用基準にしましょう。
- 適性や能力と関係のない下の表のような事項を求職者にたずねたり、採用選考に取り入れたりすることは、就職差別につながる恐れがあります。
- 就職差別につながらないよう、自社の採用基準や選考方法を確認しましょう。

◆公正な募集・採用のために、下の表の14事項に配慮しましょう。

就職差別につながる恐れがある14事項	
本人に責任のない事項	①本籍・出生地 ②家族 ③住宅状況 ④生活環境・家庭環境
本来自由であるべき事項 (思想信条に関わること)	⑤宗教 ⑥支持政党 ⑦人生観・生活信条など ⑧尊敬する人物 ⑨思想 ⑩労働組合・学生運動などの社会運動 ⑪購読新聞・雑誌・愛読書など
採用選考の方法	⑫身元調査など ⑬全国高等学校統一応募用紙・JIS規格の履歴書 (様式例)に基づかない事項を含んだ応募書類の使用 ⑭合理的・客観的に必要性がない健康診断

※採用選考時に家族のことを尋ねるケースが大変多く見受けられるので注意しましょう。
 ※エントリーシートを使用する場合も、就職差別につながる恐れのある項目を設けないようにしましょう。

◆平成28年4月1日から募集・採用時における障害者差別の禁止と、合理的配慮の提供が義務となります。

▶募集・採用など雇用に関するあらゆる局面で、障害者であることを理由とする差別を禁止します。

<禁止されている募集・採用事例>

- ①単に「障害者だから」という理由で、求人への応募を認めないこと
- ②業務遂行上必要でない条件を付けて、障害者を排除すること
- ③採用の基準を満たす人の中から障害者でない人を優先して採用すること など

※積極的差別是正措置として、障害者を有利に取り扱うことは、障害者であることを理由とする差別に該当しません。
 また、事業主と障害者の相互理解の観点から、事業主は、応募しようとする障害者から求人内容について問合せなどがあつた場合には、その求人内容について説明することが重要です。

▶障害者一人一人の状態や職場の状況などに応じて合理的配慮の提供が求められます。

募集・採用時における合理的配慮とは、障害のない方との均等な機会の確保の観点から、支障となっている事情を改善する措置です。具体的にどのような措置をとるかについては、障害者と話し合った上で決めていただく必要があります。

※ 障害者差別禁止・合理的配慮に関する各種資料は、以下のURL（厚生労働省HP）をご参照ください。
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/shougaishakoyou/shougaisha_h25/index.html

改正障害者雇用促進法

検索



厚生労働省 都道府県労働局 ハローワーク

LL280119派就01

琉球大学工学部後援会からのお知らせ

工学部後援会主催 就職説明会報告

工学部後援会事務局 浦崎直光・齋藤将人



琉球大学工学部後援会は、後援会会員企業による就職説明会を3月10日(木)、11日(金)(12時～16時30分)に、工学部1号館1階ラウンジを会場として開催しました。3月1日の企業の広報活動解禁に合わせた開催です。本説明会の開催については、会員企業からの問い合わせが非常に多く、最終的に62社の参加(うち2社のご都合により不参加)を頂きました。会場の都合により、12時～14時と14時30分～16時30分の2部に分け、各社1日のみ参加という条件で開催しました。春休み期間で帰省する学生も少なく、肌寒い日の開催でしたが、参加学生数は2日間でのべ124名、一つのブースに平均6人程度の学生が訪れるなど、ここ数回の就職活動関連イベントで最も盛況でした。今回初めて導入した本就職説明会の「のぼり」も一定の宣伝効果があったようです。

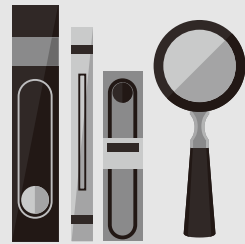
学生からは「少人数で説明を聞けるので非常に聞きやすく質問もできて良かった」「他の合同説明会ではあまり工学部系の会社の説明を聞くことができないので非常にありがたかった」などの感想がありました。これに対して、参加企業からは、「一般的な合同企業説明会や学内説明会では、なかなか工学部の学生に出会えない。工学部の学生の皆さんと接点を持ちたいので、今後も是非就職説明会を開催して下さると助かる」という意見もありました。本説明会は、学生にとっても企業にとっても、他の合同企業説明会とは異なるユニークな場となっているようです。一方で、学生・企業ともに各社2時間の時間制約に対して、時間が短すぎるという不満がやはり多く聞かれました。時間を従来よりも短縮した分、説明時間を調整する等、企業と学生がより多く接点を持てるよう、開催方法に応じた工夫を施すことが課題として挙げられます。

今後も本説明会を、双方にとってより有意義なものとなるよう工学部は尽力していきます。皆様のさらなるご指導とご支援をお願い申し上げます。



琉球大学工学部後援会事務局 (電気電子工学科内／浦崎直光・齋藤将人)

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 TEL:098-895-8710・8698 FAX:098-895-8708



平成28年度前期 能力開発セミナーのご案内

当大学校では、在職者の方々を対象に仕事を遂行する上で必要な専門的知識及び技能・技術の習得を目的とした能力開発セミナーを実施しており、平成28年4月から9月において開講を予定しているコースを紹介いたします。

また、オーダーメイドセミナーに関する相談も受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

系	コースNo.	コース名	講座内容	講座日程 【実施時間】	訓練 時間	定員 (人)	受講料 (円)
機械系	MZ121	旋盤実践技術 (組合せ部品加工編)	技能検定2級相当の旋盤作業(段付け加工・テーパー加工・偏心加工・ねじ加工・はめ合わせ加工等)を課題加工実習を通して習得する。	5/7(土)・8(日)・14(土) 【9:00~16:00】	18	10	11,500
	MZ161	フライス加工の 高精度加工技術	技能検定2級相当のフライス盤作業(六面体・溝・曲面・勾配加工等)を課題加工実習を通して習得する。	5/21(土)・22(日)・6/4(土) 【9:00~16:00】	18	10	11,500
	MZ031	実践機械設計技術 (2次元設計)	機械設計における2次元CADの活用による効率化をめざして、CADを活用した作図・編集機能・寸法記入・効率的な製図について習得する。	7/19(火)・22(金)・26(火)・ 29(金)・8/2(火)・5(金) 【18:00~21:00】	18	15	6,500
	MZ641	生産プロセス改善のための 生産・物流シミュレーション	生産・物流現場における生産能率向上とコスト削減のため、シミュレーションソフトについて学び、在庫管理や製品の流れなどを効率的にするアプローチ手法を習得する。	8/2(火)・3(水)・4(木) 【9:00~16:00】	18	10	10,000
	MZ201	NC旋盤実践技術・加工編	NC旋盤の機能、工具、段取り、プログラム及び各種補正值の有効的な活用方法について、サンプルワークの加工実習を通して習得する。	8/22(月)・23(火)・29(月) 【9:00~17:00】	21	10	11,500
	MZ211	機械加工技術 (マシニングセンタ編)	加工工程、段取り、切削条件等を実践的な課題加工実習を通し、製造現場で要求される製品加工および生産性の向上ができる技能を習得する。	8/24(水)・25(木)・26(金) 【9:00~16:00】	18	10	10,500
電気・電子系	EZ021	組込みLinuxシステム開発 技術(サーバ編)	小型パソコンとしても利用できるARMコンピュータが搭載されたマイコンボード(Raspberry)を使用し、小型Linux/パソコンとして導入からクライアントやサーバの活用方法を習得する。	7/14(水)・15(木)・16(金) 【9:00~16:00】	18	10	13,000
	EZ331	実習で学ぶ パワーエレクトロニクス回路	電力設備(電源回路)の効率化・最適化(改善)をめざして、パワーデバイス(半導体デバイス、コイル、コンデンサ等)の能力を理解し、デバイス選定及び目的に適した回路設計開発技術を習得する。	8/5(金)・6(土) 【9:00~16:00】	12	10	7,000
	EZ241	光ケーブル端末処理技術	光ファイバ通信の特徴と種類について理解し、光ファイバの融着接続やメカニカルスプライス・コネクタによる接続技術、パワーメータやOTDRによる光損失測定技術を習得する。	8/8(月)・9(火) 【9:00~16:00】	12	10	10,500
	EZ901	マイコン制御システム開発 技術(PIC編)	小型マイコンPICマイコンを用いた制御プログラム開発技術や入出力装置をマイコンに接続するための電子回路の組み立てとC言語を用いた制御プログラム開発、割り込み処理について習得する。	8/24(水)・25(木)・26(金) 【9:00~16:00】	18	10	10,500
	EZ491	Webを活用した生産支援 システム構築技術	生産活動全般の効率化に向けてWeb(ブラウザ)を活用したシステムにおけるHTML、スクリプト、PostgreSQL(データベース)、JavaServlet(言語)を学び、データを有効活用する技法を習得する。	8/24(水)・25(木)・26(金) 【9:00~16:00】	18	10	10,000
	EZ111	オープンソース 携帯OS活用技術	組込みシステムにおけるソフトウェア開発の効率化をめざして、Androidの開発環境、アプリケーション開発、Android 端末での実装方法を習得する。	8/29(月)・30(火) 【9:00~16:00】	12	10	7,000
	HZ081	地理情報システムの 運用技術	建築設計における高効率業務実現及び高付加価値情報の創出をめざして、地図を利用した情報管理システム、いわゆる地理情報システム(GIS)の運用技術を習得する。	7/28(木)・29(金) 【9:00~17:30】	15	10	12,500
居住系	HZ101	木造住宅の耐震精密診断 技術	木造建築物に関する耐震診断業務において、診断時の問題点や計算理論などを計算演習課題を通して、木造住宅の耐震診断技術を習得する。	9/6(火)・7(水) 【9:00~16:00】	12	10	10,000
	HZ051	寄棟屋根の墨付・加工 実践技術	木造建築の小屋根組み作業の技能継承をめざして、小屋組の部分的な課題作成を通し、寄棟屋根に関する知識・技能・技術を習得する。	9/17(土)・18(日)・24(土) 【9:00~16:00】	18	10	13,000

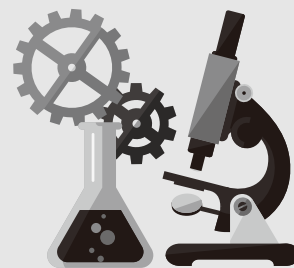
❖地域企業の皆さんと一緒に「ものづくり」を行っていきたくて考えています。技術的相談等お気軽にお寄せください。❖

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 沖縄職業能力開発大学校(援助計画課:岡村・赤嶺)

〒904-2141 沖縄県沖縄市池原2994-2 TEL. 098-934-4810 FAX. 098-934-6287

●メルマガ会員募集中 <http://www.jeed.or.jp/merumaga/index.html> ●ホームページ <http://www3.jeed.or.jp/okinawa/college/>

沖縄高専だより Okinawa National College of Technology



「平成27年度沖縄工業高等専門学校教育・研究情報交流会」を開催しました

沖縄高専では、平成28年2月29日(月)に本校の講義室において「平成27年度沖縄工業高等専門学校教育・研究情報交流会」を開催しました。

本交流会は、沖縄工業高等専門学校国際会議発表支援制度と独立行政法人国立高等専門学校機構在外研究員制度を活用して得られた研究成果を発表するものです。

国際会議発表支援制度は、国際会議等で発表する際に必要な経費を補助することで、沖縄高専の教職員の教育研究活動の向上を図り、国際的に活躍できる教職員を育成することを目的としています。

在外研究員制度は、海外の教育研究機関に派遣し、先進的な研究や優れた研究実践に参画させることなどにより、教育研究能力の向上を図り、高専の教育研究を充実させることを目的としています。

今回は、本年度国際会議で研究発表を行った3名の教員と在外研究員として米国の大学に1年派遣されていた教員1名が発表を行い、本校教職員をはじめ地元企業関係者の方々もご参加いただきました。発表後には活発な質疑応答がなされ、本校の教育・研究活動の活性化に向けて有意義な交流会となりました。

当日の発表内容と発表の様子

所 属	氏 名	役 職	タイトル
情報通信システム工学科	山田 親 稔	准教授	Report on Visiting Scholar 在外研究報告
情報通信システム工学科	知 念 幸 勇	特任教授	New equivalent-electrical circuit model and a practical measurement method for human body impedance 人体インピーダンスの効果的な測定方法と新等価回路モデルの提案
生物資源工学科	嶽本あゆみ	准教授	Comparison of high efficiency of essential oil extraction using instantaneous high pressure process in hydrodistillation method and microwave method 熱水抽出法とマイクロウェーブ法における瞬間的高圧前処理を用いた精油抽出
総合科学科	渡 利 正 弘	准教授	Joint work project 2015 with NYP and ONCT-Analyses for branching pattern models of two subtropical species- 5th Asian Conference on Engineering Education に参加して



沖縄工業高等専門学校産学連携協力会事務局 (担当:喜屋武)

〒905-2192 名護市字辺野古905番地 TEL:0980-50-0133・FAX:0980-55-4012

E-mail:sangaku@m1.cosmos.ne.jp ホームページ: <http://www.cosmos.ne.jp/~sangaku/>





工業技術センターだより Okinawa industrial technology center

<伸びゆく沖縄・支える技術>



技術情報誌テクニカルニュース65号の発刊について

工業技術に関する県内企業の技術開発や、当センターが保有する技術シーズや研究成果等、各種技術情報を技術情報誌テクニカルニュースを通じて提供しております。(年3回)

通巻65号を3月中旬に発行しておりますので、お知らせいたします。当センターのホームページで閲覧可能です。

【研究紹介】

沖縄の機能性を有する地域資源活用型ネットワーク構築事業
コンパクトな火葬炉の排ガス処理設備の開発

【技術支援事例】

果実加工品の微生物対策 他



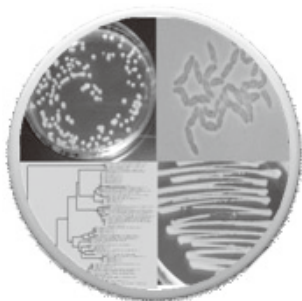
工業技術センター研究プロジェクトのご紹介

亜熱帯地域に位置する沖縄は、地理的、文化的背景から多様な微生物、薬用食材、郷土食を有しております。当センターでは、このような他府県にはない沖縄の魅力を発掘し、産業利用へ繋げるため、下記の事業を行っております。ご興味のある企業の方は、お問い合わせ下さい。

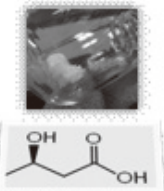
脳の働きを良くする成分をつくる — おきなわ型グリーンマテリアル生産技術の開発 —

β-ヒドロキシ酪酸は、認知症の予防や糖尿病症状の緩和などの効果がある物質です。人間の体内でも生産・利用されています。他にも、プラスチックの原料などとして利用することもできます。

私たちは沖縄県産の微生物をつかってβ-ヒドロキシ酪酸をたくさんつくる方法を開発しています。さらに、脳機能サポート食品の開発など、β-ヒドロキシ酪酸を利用するための研究も行う予定です。



β-ヒドロキシ酪酸



植物資源をもっと有効利用 — 生物資源機能データベースリノベーション事業 —

当センターは、県産資源の薬理情報等の収集(薬草データベース)、生物資源の収集と機能性評価(素材ライブラリ)を継続的に行ってきました。

本事業では、新たな機能性評価技術の導入、未収集素材の収集を行いライブラリの拡充を図ります。

素材ライブラリの拡充

新たな機能性評価法の導入

機能性を利用した製品開発

工業技術センターは、県内製造業への技術的支援を通して産業の活性化に貢献することを使命として事業に取り組んでいます。例年3~4月に県が行っております要望試験研究課題調査におきまして、当センターが行う研究課題について要望を行うことが可能です。(締め切り4月22日)是非、ご活用頂けますようお願いいたします。(沖縄県商工労働部ものづくり振興課のホームページをご覧ください。)

沖縄県工業技術センター (技術支援班/企画管理班)

〒904-2234 沖縄県うるま市宇州崎12番2 TEL:098-929-0111・FAX:098-929-0115
E-mail:kousi@pref.okinawa.lg.jp (メルマガを始めています。HPより登録ができます。)

●ホームページ: <http://www.pref.okinawa.jp/site/shoko/kogyo/index.html>

OKINAWA INDUSTRIAL FEDERATION NEWS TOPICS

連合沖縄より要請

3月2日(水)に連合沖縄の大城紀夫会長、他役員の方々が本会を訪れ、2016年の春季生活闘争方針についての要請があった。

連合沖縄では、第44回地方委員会を開催し、賃金引き上げ・労働時間短縮等を中心とする労働条件の改善をめざすとした「連合沖縄2016春季生活闘争方針」を決定した。

私たちを取り巻く雇用情勢は、2015年12月の有効求人倍率1.27倍、完全失業率3.3%と完全雇用状態とも言われているが、正社員の有効求人倍率はいまだ1倍を切る状況であり、非正規労働者は、2038万人(前年度比約22万人増加)、いわゆる「不本意非正規」が約315万人に上り、総じて労働条件の低い雇用者が増えている状況にある。

沖縄県内の雇用環境は、改善されたと言われておりますが、沖縄労働局から発表された雇用関連の年平均各指数によりますと、有効求人倍率、失業率、非正規労働者割合など、雇用環境は、依然として全国一低い水準または、全国平均以下という状況であります。また、沖縄県が発表した子供の貧困率29.9%という結果は、貧困家庭の割合でもあります。貧困は、低賃金、非正規労働が大きな要因であり、低賃金であるがゆえにダブル・トリプルワークによる家庭の時間が取れないことが子どもの貧困に派生していると考えております。貧困解消には、労働条件の継続した底上げが必要不可欠である。

については、県内労働環境の改善に向け、下記事項について貴会会員への一層のご指導とご協力をお願いした。本会では、呉屋会長が要請を受け、各会員企業へは広報誌でもって周知させると述べた。



呉屋工連会長(左)と大城連合沖縄会長(右)

1. 賃金の引き上げについて

4. ワーク・ライフ・バランス社会の実現について

2. 最低賃金の引き上げについて

5. ワークルール(法令遵守)の取り組みについて

3. 職場における男女平等の実現について

6. 労働関係法令の遵守について

公益社団法人沖縄県工業連合会 会員募集のご案内

公益社団法人沖縄県工業連合会は、昭和28年5月に「沖縄県における工業の育成及び振興を図り、もって県経済の発展に寄与する」ことを目的に創立されました。現在では、製造業を中心に約350社の会員を有し、毎年7月の「県産品奨励月間」や「沖縄の産業まつり」などをとおして、県内製造業並びに関連産業の振興発展に寄与するため鋭意努力しております。本会の主旨に賛同していただける方なら規模の大小は問いませんので、ご入会をお待ちしております。お気軽に事務局までお問合せください。

会員への主なサービスならびに特典

- 機関誌「工連ニュース」や電子メール等による各種情報サービスの提供
- 経営者や従業員を対象とした講習会、技術・経営セミナーなどの案内
- 公設試験研究機関との連携による技術力向上に関する事業などへの参加
- 県産品奨励月間事業(7月)における国・県・市町村、食品・建材大口需要者などに対する要請活動への参加
- 「県産品マーク」の取得
- 本会のインターネットホームページによる会員企業の紹介
- 「沖縄の産業まつり」の出展料の優遇
- 従業員表彰制度の活用(優良従業員・創意工夫功労者・優秀技能者)
- (一社)沖縄県発明協会との連携による産業財産権に関する情報提供など



会員の皆様へ「工連ニュース」で自社の商品をアピールしてみませんか?

会員の皆様方には平素より本会機関誌「工連ニュース」の事業活動についてご理解・ご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。

「工連ニュース」では会員サービスの一環として会員の新品などを紹介するコーナーを設けています。事業のPR、新商品の紹介などに積極的にご利用下さい。



●お問合せ先

公益社団法人沖縄県工業連合会 TEL.098-859-6191 担当：川満



ゆいくる材の新規申請受付について



平成28年度 沖縄県リサイクル資材評価認定制度

【ご案内】

沖縄県土木建築部では平成16年7月に「沖縄県リサイクル資材評価認定制度(ゆいくる)」を制定し、年1回、新規申請受付を行っております。平成28年度の受付を下記のとおり案内致します。

◎沖縄県リサイクル資材評価認定制度(ゆいくる)とは

資源循環型社会の構築を目指し、沖縄県土木建築部が発注する公共事業でリサイクル資材の利用を促進するための制度です。

◎「ゆいくる」には以下のようなメリットがあります。

(リサイクル資材製造販売者にとっては)

- ・沖縄県リサイクル資材評価認定制度に申請し、同制度で認定された建設資材(ゆいくる材)は、沖縄県土木建築部が発注する公共工事で利用方針に従い使用されるようになります。
- ・沖縄県リサイクル資材認定制度(ゆいくる)のロゴマークが使用できるようになります。
- ・沖縄県リサイクル資材認定制度の認定資材としてホームページ等に情報が掲載されます。

(工事受発注者にとっては)

- ・品質/性能/安全性の確保されたりリサイクル資材の選定が容易になり、適正に使用できます。

1. 受付期間 **平成28年5月9日(月)～平成28年5月20日(金)**

※ 受付時間：土日・祝祭日を除く 9:00～12:00 / 13:00～17:00

※ 受付は前日までに電話で予約が必要です。

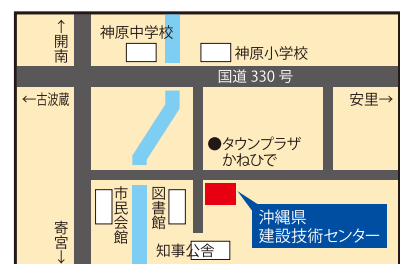
2. 受付場所 (一財) 沖縄県建設技術センター 寄宮庁舎1階研修室
〒902-0064 那覇市寄宮1丁目7番13号

3. 申請資格 沖縄県内で発生した廃棄物を原料として製造された建設資材について認定を受けようとする者(但し、県内の製造者に限る)

4. 申請方法等 (一財) 沖縄県建設技術センターのホームページ
「ゆいくる」→「ゆいくる材認定申請(製造業者向け)」をご覧ください。
■ <http://www.okinawa-ctc.or.jp> ■

5. 電話番号 (一財) 沖縄県建設技術センター試験研究部
TEL 098-833-4196
建設リサイクル班まで

6. 備考 申請の相談は随時受付しています。



FOR YOUR HAPPY TIME

Orion

おいしさしっかり、キレすっきり。

ORIONSTYLE

オリオンスタイル



Enjoy!!



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。

妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は、おいしく、適量に。のんだあとはリサイクル

オリオンビール株式会社